

平成30年度事業計画書

平成30年4月1日から平成31年3月31日まで

公益財団法人 奈良先端科学技術大学院大学支援財団は、「奈良先端科学技術大学院大学の持つ斬新かつ優れた特性及び機能を最大限に発揮していただくために、その教育研究活動を支援するとともに、大学院大学と産業界、地方公共団体等との交流を促進することにより、先端科学技術分野の研究開発を担う研究者、技術者等の育成及び研究開発基盤の充実に寄与し、もって我が国の科学技術の発展に資する」という目的を達成するため、平成30年度において下記の事業を実施する。

1. 大学院大学支援事業

大学院大学に対する支援事業については、大学院大学からの申請内容を平成30年2月22日に開催の支援事業選考委員会において審査の上、以下のとおり決定した。

支援総額 33,400千円

(1) 教育研究活動に対する支援

①教育研究活動支援

10名、15,000千円（うち助教6名、11,000千円／博士後期課程学生4名、4,000千円）

氏名	所属・職名	研究テーマ
久保 尋之	情報科学領域 光メディアインタフェース・助教	試作レス製品デザインのためのハンドヘルド質感計測技術に関する研究
山口 暢俊	バイオサイエンス領域 花発生分子遺伝学研究室・助教	花の形成を制御するAGAMOUSを介したクロマチン構造の制御
由利 俊祐	バイオサイエンス領域 器官発生工学研究室・助教	新規臓器欠損法による異種キメラ動物を用いた腎臓の作成
横山 隆志	バイオサイエンス領域 腫瘍細胞生物学研究室・助教	がん特異的な新規ROS調節機能を標的としたがん予防・がん予測法の開発
Bermundo Juan Paolo Soria	物質創成科学領域 情報機能素子科学研究室・特任助教	Elucidation of conductivity transformation of oxide semiconductors at low temperatures
林 宏暢	物質創成科学領域 有機光分子科学研究室・助教	柔らかさを導入した単分子膜トランジスタの開発
北野 和哉	情報科学領域 光メディアインタフェース・M2年	コンピューテーショナルフォトグラフィによる光の多次元計測
小島 久幸	バイオサイエンス領域 構造生物学的研究室・D2年	Hippo経路の制御因子Ajubaの構造生物学的解析
Christian Mark Pelicano	物質創成科学領域 量子物性科学研究室・D2年	Fabrication of Nanostructured ZnO for Perovskite Solar Cells and Light Emitting Diodes
中内 大介	物質創成科学領域 センシングデバイス研究室・D2年	Hf系酸化物を中心とする新規単結晶シンチレータの開発

②新任教授スタートアップ支援

新任教授が研究体制を整備して研究活動をスムーズに始められるよう支援する。

4名、6,000千円

氏名	所属・職名	研究テーマ
Gwenael RAPENNE	物質創成科学領域・教授	Design and synthesis of new techno-and bio-mimetic molecular machines
遠藤 求	バイオサイエンス領域・教授	植物における概日時計を介した細胞運命決定機構の解明
(未定)	バイオサイエンス領域・教授	
(未定)	バイオサイエンス領域・教授	

③社会人ドクター修学支援

企業に所属している社会人の修学の促進を図るため、入学料と授業料を自己負担して博士後期課程に入学する社会人学生を支援する。

14名（博士後期課程1年生）1,400千円

(2) 国際交流活動に対する支援

①海外派遣支援

海外の国際会議において、研究成果の発表と情報収集をおこなう博士後期課程学生を支援する。

26名、4,678千円

（うち、情報科学領域 10名、バイオサイエンス領域 8名、物質創成科学領域 8名）

②外国人留学生支援

教育研究の国際化を推進するため、外国人の留学を支援する。対象者は大学院大学の留学生特別推薦選抜の合格者の中から選考した留学生（博士後期課程）とし、渡日旅費と入学料を支援する。

6名、2,652千円（うち、旅費支援 960千円／入学料支援 1,692千円）

③大学間交流活動支援

タイ・カセサート大学との学術交流協定に基づき、カセサート大学においてソフトウェア分析に関する研究開発に従事するための派遣を支援する。

3名、310千円

(3) 学術研究成果の普及に対する支援

意見交換会や講演会、研究業績報告会、シンポジウムなど、大学院大学の研究成果を広く社会に還元するための取り組みを支援する。

6件、2,000千円

名称	開催日・場所	代表者	参加対象	助成額
The 9 th International Workshop on Empirical Software Engineering in Practice(IWESEP) & Mining Software Repositories(MSR) Asia Summit 2018	IWESEP: 平成30年12月4日 奈良市内 MSR Asia Summit: 平成30年12月5日 奈良市内	情報科学領域 助教 畑 秀明	大学生、研究者、実務者	320千円

Seminar on Classification of Plants Based on Metabolite-Content Similarity	平成30年 6月 バングラデシュ・ダッカ	情報科学領域 准教授 Md. Altaf-UI-Amin	バングラデシュ工科大学・イーストウェスト大学・ユナイテッドインターナショナル大学の学生・大学院生	180千円
学生募集シンポジウム	平成31年 2月 奈良市内	バイオサイエンス領域長 教授 橋本 隆 広報渉外委員長 教授 河合太郎	バイオサイエンス領域の教員、事務職員並びに学生。 受験を考えている大学学部生、高専生、社会人等	190千円
Chulalongkorn University - NAIST - Temasek Life Sciences Laboratory Trilateral Symposium	平成30年10月頃 タイ・バンコク	バイオサイエンス領域長 教授 橋本 隆 広報渉外委員長 教授 河合太郎	演者としてバイオサイエンス領域の教員5名。聴講者としてチュラロンコン大学の教員、学生。	310千円
NAIST物質創成科学領域公開研究業績報告会	平成31年 2月 ‘予定 奈良先端大	物質創成科学領域長 教授 太田 淳	本学学生・教職員、他大学・他関係機関・一般市民	500千円
男女共同参画推進関係セミナー	時期未定 奈良先端大	男女共同参画室長 中島 潔	本学学生・教職員、他大学・関係機関・一般市民	500千円

(4) アワード事業

学習や研究に対する意欲を高めるため、学位記授与式において、優秀な成績を修めた学生を理事長名で表彰し、賞金を授与する。

また、教育研究活動で優れた業績を挙げた教員に対する表彰に際し、賞金を贈呈する。

1, 360千円

「NAIST 最優秀学生賞」 14名、840千円（博士前期課程学生 7名、博士後期課程学生7名）

「ベストティーチング賞」 1名、120千円（情報科学領域教員）

「NAIST バイオ学術賞」 1名、200千円（バイオサイエンス分野の若手研究者）

「NAIST 学術奨励賞」 1名、200千円（物質創成科学領域教員）

2. 先端科学技術の普及啓発事業

大学院大学が理念の1つとして「社会の発展や文化の創造に向けた学外との密接な連携・協力の推進」を掲げ、積極的に取り組んでいる、いわゆる産学官の連携推進の活動のうち、当財団は2つの取り組みに関わり、大学院大学支援事業とは別枠で支援を行う。

(1) 産学官交流事業

①奈良先端大発 新産業創出支援事業

大学院大学では「企業や他の大学との共同研究」、「企業からの受託研究」、「企業からの研究者の受け入れ」などを行っているが、これとは別に、研究成果や技術シーズの実用化・製品化を目指して関西地区の中小企業やベンチャー企業と連携して研究開発に取り組む場合に、研究開発費用の一部を支援する。そして、年度末に取り組み成果の報告会を開催する（平成29年度成果報告会は平成30年3月1日に奈良先端大にて開催）。

5件、4,000千円

大学研究者	連携企業	研究開発テーマ	
情報科学領域 教授 飯田 元	(合)EASE創研	クラウド型外国語リスニング学習システムの技術開発	継続
情報科学領域 准教授 神原 雅之	(株)amirobo tech	人間との信頼関係構築を目的とした対話エージェントシステムの開発	新規
バイオサイエンス領域 教授 高木 博史	奈良県酒造協同組合	N-アセチルトランスフェラーゼ Mpr1が清酒酵母の発酵力に及ぼす影響と清酒醸造への応用	新規
物質創成科学領域 教授 中村 雅一	ケニックス(株)	フィルム状デバイス作製のためのロールツーロール高速分子蒸着装置の開発	新規
物質創成科学領域 准教授 石河 泰明	テクノス(株)	屋外エレクトロルミネッセンス診断システムの開発	新規

②奈良先端大産学連携フォーラム

先端的で独創的な研究を行っている大学院大学の研究者と産業界の研究者・技術者との交流の場を提供することを目的として、大学院大学、(公社)関西経済連合会および当財団の共催で第33回目となるフォーラムを開催する。フォーラムでは、30年度より3研究科から1研究科に移行し、融合領域教育の強化及び新たな研究領域の開拓に取り組んでいる大学院大学の研究者による最新の研究成果の紹介講演および情報・意見交換会を実施する。開催時期と場所は未定（第32回は平成29年7月21日に関西経済連合会 会議室にて開催）。

3. 地域交流事業

(1) 地域交流

先端科学技術に対する地域住民の関心を高めるとともに、高山地区の立地施設と地域住民との相互理解を深めるため、立地施設の共催または当財団単独で交流事業を行う。

①高山サイエスタウンフェスティバル

高山地区に立地する6施設（大学院大学、参天製薬(株)奈良研究開発センター、上六印刷(株)、(株)Burley plus、(株)芦田製作所、当財団）で組織する「高山地区立地施設等連絡協議会」（事務局は当財団）の主催により、高山地区の振興と地域住民の交流を深めるためのフェスティバルを11月に開催する。

フェスティバルでは、それぞれの施設の公開や様々なイベントが催され、当財団ではオープンギャラリーや広場などをイベントに提供するほか、大学院大学の教官や学生が講師となり、小学生とその保護者を対象に、親子で科学に親しむ「親子科学教室」を実施する。

②NAISTサイエンス塾

大学院大学の教官や学生が講師となり、小学生を対象とした科学実験教室を年間8回（原則第2土曜日）開催する。

③夏休み科学実験教室

夏休み期間中に、奈良県内の大学の研究者などが講師となり、小学生を対象とした科学実験教室を開催する。

④科学に関する絵画展

近隣の市町の小学生から科学をテーマとする絵画を公募し、優れた作品を表彰(理事長賞、優秀賞、入選)するとともに、サイエンスプラザに展示する。

⑤けいはんなプラザ・プチコンサート in 高山

毎月(2月を除く)第3月曜日の昼間(12:15~12:45)に、高山サイエンスプラザオープンギャラリーで催す若手音楽家による演奏会に対し、6つの立地施設が協賛を行う。

(2) 情報発信

①財団機関誌の発行

「平成29年度に支援した教育研究活動・国際交流活動の成果についての大学院大学からの寄稿」、「平成30年度の大学院大学支援事業の内容」、「平成29年度に行った産学官交流事業と地域交流事業の内容」および「当財団の概要」などを記載した財団機関誌「シーエンス」(CIENCE)第17号を発行する。

発行部数 900部、発行時期 11月

②インターネットによる情報発信

当財団のホームページ(URL:<http://www.science-plaza.or.jp>)において、催事などのお知らせのほか、財団の業務・財務に関する情報を適時公開する。

4. その他の事業

(1) 高山サイエンスプラザおよび高山サイエスタウン駐車場の運営

高山サイエンスプラザ(4階建・総床面積 5,451 m²)は、当財団が行う産学官交流事業や地域交流事業などの活動拠点であり、研究者や市民の交流の場となっている。平日の9時から17時の間開館しており、地元の小学生などの団体の見学に対応している。建物内には2階に交流サロンや研修室、3階に貸事務所、4階に海外からの研究者や学生などのための住戸および大研修室があり、さらに屋外には「科学する子供たちの広場」や駐車場があり、当財団はそれらの施設の管理・運営を行う。

また、携帯電話無線局設置のため、引き続き屋上の一部を賃貸し、使用させる。

なお、近年、施設や設備の経年老朽化に伴い、大規模な修繕が必要となっており、平成30年度は3階貸事務所の賃貸部分、1階当財団事務所の空調機の更新を行う。

以上